

進捗状況の公表フォーマット

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	進捗状況	備考
住民の健康の保持の推進										
① 特定健康診査の実施率(%)	32.7%	33.5%	35.5%	37.5%	41.2%	—	—	65%以上	年々増加している。	
② 特定保健指導の実施率(%)	13.1%	13.0%	14.6%	16.4%	14.2%	—	—	45%以上	横ばい傾向にある。	
③ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率(%)	-1.70%	-2.90%	-1.20%	0.10%	0.95%	—	—	25%以上	改善傾向にある。	
④ たばこ対策(喫煙率)	15.0%	14.2%	14.1%	15.0%	14.0%	14.6%	—	12%以下	横ばい傾向にある。	
医療の効率的な提供の推進										
⑤ 医療機能の強化・連携等を通じた平均在院日数の短縮(日)	28.1日	27.6日	27.3日	26.9日	26.2日	25.5日	—	引き続き減少	年々減少している。	
医療に要する費用の見通し										
⑥ 医療費(億円)	—	4,229億	4,295億円	4,385億円	4,456億円	—	—	(適正化前) 5,107億円 (適正化後) 4,984億円	適正化を推進した場合の平成26年度の推計額4,643億円を187億円下回っている。	
独自に設定している目標										
⑦ がん検診の実施率	胃26.6%、肺15.8%、大腸23.8%、子宮22.2%、乳房23.5%	胃29.4%、肺19.2%、大腸25.9%、子宮27.1%、乳房27.3%	胃34.5%、肺30.2%、大腸31.1%、子宮25.6%、乳房27.3%	胃35.8%、肺34.3%、大腸36.0%、子宮31.3%、乳房34.5%	胃34.7%、肺31.0%、大腸33.9%、子宮29.0%、乳房31.4%	胃36.7%、肺33.8%、大腸35.3%、子宮30.8%、乳房32.9%		50%以上 (5種類のがん検診のいずれも)	5種類のがん検診のいずれも増加傾向にある。	なら健康長寿基礎調査において、なら健康長寿基本計画の重点健康指標のうち、医療費の適正化に資する4指標を県独自の目標として設定。 (出典:なら健康長寿基礎調査(毎年実施))
⑧ 運動習慣のある人の割合(20歳以上)	43.8%	35.0%	36.4%	43.1%	43.6%	41.0%	43%以上	目標値前後で推移している。		
⑨ 日本型食生活の実施率	—	—	47.1% (87.2%)	36.5% (87.1%)	34.9% (87.4%)	33.6% (87.0%)	49.5%以上	アンケート調査の選択肢のうち、「ほとんど日本型食生活である」を選択する割合を目標に設定。なお、「日本型食生活であることが多い」を選択した場合を含めると下段の()書きのとおり横ばいである。		
⑩ 歯科検診の受診率	35.9%	36.5%	36.9%	40.2%	40.9%	42.6%	45%以上	年々増加している。		

※「○」が記載されている欄については、原則数値を記載することとする。なお、黄色セル以外の箇所は基本的には昨年度の進捗状況で公表した数値を用いることとする。

注1)平成22年度以降の各データの最新実績値まで記載。都道府県独自に設定している目標は独自に進捗評価を行う(記載出来る範囲で記載。)

注2)たばこ対策、後発医薬品の使用促進、独自に設定している項目において、目標を設定していない場合は、その行を削除できる。

注3)メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率は、性・年齢階級別に該当者数の割合を算出し、階級毎の人口をかけることで該当者数を算出。

注4)平均在院日数の出典は病院報告であるが、年度単位ではなく年単位の統計のため、表中「平成○年度」を「平成○年」と読み替えて記載。

注5)独自指標が3つ以上ある場合は、行を追加して作成する。

注6)見解欄については、各目標の進捗状況について簡潔に記載。記載内容は自由であるが、例えば、目標達成のために実施してきた取組の効果及び目標達成に向けた今後の各都道府県の課題、すでに目標を達成している場合にはその要因としてどういったものが考えられるか等を記載することが考えられる。